

水の大切さ

その日はテスト前日で早帰りの日だった。家に入ろうとすると、突然母が飛び出してきた。いつものことだが、今日は特別慌てている。

「今日はどうしたん？」

ときくと、母は走りながら、

「水道パイプが破裂した！」

と言い、家の外にある水の元栓を閉めに行つた。パイプが破裂したなんて思ってもいない。答えだったから、びっくりした。急いで家に入ると水がジャバジャバ噴き出していた。先日降った大雪が邪魔していて、元栓の場所を掘りあてるのに時間がかかったらしく、なかなか水が止まらない。私はとっさにガムテープをとりに行き、パイプをぐるぐる巻きにして水をとめた。服も顔もベチョベチョになり、床は水びたしになっていた。

天理市立福住中学校 三年

岡本 愛美

元栓を閉めてしまったので、家中で水が使えなくなつた。蛇口をひねってみると、わずかに水が残っていたみたいなので、急いで手を洗つた。トイレはトイレのタンクにおふろの残り湯を何度もつぎ足して利用した。夕方、パイプから水が出てこないようにするフタを買いに行き、取りつけ、再び水が使えるようになったのは、この日の夜である。

水のことでいうと、つい最近も祖父の家の台所の蛇口が壊れてしまい、水が止まらなくなつた。この日は夜だったので部品を買おうにもお店が閉まつていて行けない。深夜一時まで格闘したすえに、蛇口に物を詰めこみ、水を止めた。その間、約三時間半、前の時は約八時間も水を使うことができなかったのだ。私たちにとってその時間はとても長く感じられた。

こんなことが二回もあり、大変だったと思う半分、いい経験をしたとも思っている。考えてみれば、震災や災害などで被害を受けた人々は何日間も何か月も水が使えなかったそうだ。震災や災害で被害を受けた人たちのことをよく考えることができたからだ。私は今まで、何か災害が起こっても、避難所に行けば助かるし、まあどうにかなるだろうと思っていた。それにここは奈良県だから、津波の心配がないから大丈夫だろうと思っていた。また、被害を受けた人々のことも、かわいそうやなあとは口では言っているのだが、心の中では、半分人ごとのように感じていた。だが、一時的にだが水が使えなくなり、災害などの恐ろしさを想像し、水不足を経験したことで、水の大切さがわずかに少しだがわかった気がした。

蛇口をひねるといつでも水は出てくる。でもそんな日本ではあたりまえなことがあたりまえじゃなくなったり、人はどうするものだろうか。私は思う。水の代わりとなるものを研究し、開発するのだから。それともここまできてようやく、水の大切さについて知るの

だろうか。人は誰でも経験しないと理解したり、それについて考えたりしないのだ。しかし、それでは遅い。水には限りがある。で、そんなことをしていると、どんどん水が地球上から無くなっていき、やがてから地球にならなくなってしまふ。そんなことになれば、人類は生きていけなくなってしまう。だからこそ、水という限りある資源を大切に使うように心がけ、また、少しでも無駄にしないようにする対策を考えていかなければならない。例えば、歯みがき中や入浴時の水を出しっぱなしをなくしたり、地域のクリン作戦に参加するなどがある。私たちにできることはこんな小さなことだが、その小さなことをしようとする心をたくさんの方が持つれば、地球環境がどんどんよくなり、豊かになっていくのではないだろうか。